

受 験 番 号

国

語

(100点 60分)

(2023年度A－1)

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。
複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。
- 3 この問題冊子は表紙を除き、16ページです。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。
 - ① 氏 名 欄 漢字氏名を記入してください。
 - ② 科 目 名 欄 「国語」と記入してください。
 - ③ 受 験 番 号 欄 受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。
- 6 受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
- 7 解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。
例えば

20

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように20の解答マーク欄の③にマークしてください。

(例)

	解 答 マ ー ク 欄											
20	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫

- 8 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

(
解答番号

1

5

35

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問9）に答えなさい。

今さら強調することでもありませんが、現在僕たちを取り巻くメディア環境は大きく変化しつつあります。もちろん、あたらしい技術は必ずあたらしい問題を引き起こす。淘汰されゆくものだけが持つよさもあるでしょう。しかし僕は実のところ「電子書籍の波がやってきた後に残るであろう紙の本のよさ」とか「インターネット時代にも残るマスメディアの役割」といった旧マスコミ業界人が大好きな「いい話」に、心のどこかで冷淡になってしまっているがあります。

もちろん彼らの「いい話」は正しい。だがその正しさは、何かもつと本質的なことを隠蔽^{いんぺい}するために必要以上に強調されているように思えます。

実はこの種の問題を語るときによく引用される童話があります。それは新美南吉の童話『おちいさんのランプ』です。これは日露戦争のころ農村にランプをフキユウ^aさせて成功した男の物語です。ある日、村に電気を引くことが決まり、主人公の営むランプ屋は存亡²の危機に立たされます。行政を逆恨み^アした主人公はなんと区長の家への放火を試みるのですが、そのとき火打ち石でなかなか着火することができず、焦って独りごちるのです。マッチを持ってくればよかった、火打ち石のような古いものはいざというときに役に立たない、と。そしてここで主人公はハッとします。古いものはいざというときに役に立たない——自分が間違っていたことに気づいた彼は、泣きながら在庫のランプを自らの手で割って、廃業を決意することになります。

そして、僕が考えるこの童話の白眉¹はそのエピソードです。時は下り昭和一〇年代、ランプ屋を止めて街で本屋を営むようになった主人公はその孫に自分の体験を語ります。このエピソードから浮かび上がってくるのは新美の「知」への信頼です。主人公がランプ屋を廃業した後、本屋になったのは、おそらくどんなに時代が移ろって、ランプが電球になり電球が蛍光灯になったとしても、言葉を通して知を共有する文化は変わることがないという確信があったからだと思います。

新美のこの確信を僕は支持したい。しかし新美が強く信じていた文化のかたち、つまり人間と知（を伝達する情報）との関係は、彼が想像したであろうものよりも圧倒的に速く、そして決定的に変化しています。もちろん古いメディアの役割は今すぐゼロにはならない。しかし少なくとも「このまま」ではいられない。そして「俺たち旧メディアだからこそできることがあるんだよ」といった「いい話」たちの何割かは確実に、この現実から目をソム^bけるためにささやかれている。だとすれば、そんな「正しい」話たちは別の次元では害悪としてしか機能しないでしょう。

エピソードでさらに彼は告白します。実は電気が村に通った後も、ランプの需要そのものは決定的にはなくならず、続けようと思えばランプ屋はケイゾク^cできたのだ、と。しかし、それでも彼は廃業した。なぜか。それはランプが彼にとって文明開化の象徴だったからです。だからこそ彼はランプが時代を象徴する力を失うと同時に廃業したのです。そして僕は思います。時代を切り開き、本当の意味で文化を守り育てるのはこうした知性⁴に他ならない、と。

前述の通り、この『おちいさんのランプ』は電子書籍をめぐる議論でよく引き合いに出される童話です。しかし僕はこの童話で描かれているような、技

術革新がもたらす社会の変革はいま、日本の文字文化についてはより **A** 的なレベルで進行していると考えています。それは紙の本がなくなって電子書籍にとって代わられる、という **B** 的なレベルの変化ではない。

たとえば今流通している日本語の、いわゆる「四六判(約一三〇×一八八ミリサイズ)」の本はどういうものかと言うと、一冊一〇〜一五万字を、だいたい約一万字の章に分けて読ませているものです。一文の文字数は大体一〇〇〜二〇〇字くらいでできていますが、実のところこの形式と規模はほとんどの合理性もなく決まっているものです。この日本語の散文の形式はおそらく、明治期の知識人が外国語の翻訳作業を通して現在の日本語をかたちづくっていった頃にその原型が生まれ、その後の出版事情の変化の中でマイナーチェンジを繰り返してきたものだと思います。そして、現在のこの日本語の本と散文の形式を定めているのは、出版社の制作コストや書店でのチンレツルールの慣習です。こうしたものを基準に本の大きさやページ数、ひいては文章量やその区切り方が決まっている。これが意味するところは何かというと、前述の日本語の形式は特に人間が **C** 的に理解しやすい形式でもなければ、リズムでもなければ、分量でもない、ということだと思います。少なくとも、そのために最適化されてきたものではない。

たとえばツイッターでフォロアー数が一〇〇人くらいの人は、ほぼタイムラインの投稿を全部読んでいることが多いはずです。仮にひとり一日二回つぶやいたとした場合、一日にこれを全部読むと最大二万八〇〇〇字になる。こうして考えてみると活字離れなんて嘘で、日本人は三日か四日で一冊分くらいの活字を読んでいることになる。もちろん、同じ書き言葉でもソーシャルメディアの言葉と本の言葉はまったく違う。けれど、今の日本語の本で支配的な散文の形式やその切り分け方が、人間に文字情報を通じて何かを伝えるときにどれくらい適しているか考え直さないといけない時期に来ているのは間違いない、と僕は思います。なぜならば、**D** 的にそれが可能になっているからです。それは出版文化だけではなく、僕たちの書き言葉によるコミュニケーションや教育すら変えるものでしょう。

単純に考えて、ここ一〇年余りの情報化の進行は人間と「言葉」との関係を大きく書き換えています。デジタル化で「紙の本」というものの存在意義が大きくユラいでいるのはもちろんのことですが、僕はもつと本質的な変化が現代には起こっていると考えています。

有史以来、人間がここまで **E** 的に書き言葉でコミュニケーションをとっている時代はない。たとえば僕たちは携帯のメールやライン(LINE)で連絡をとりあい、ブログやツイッターやフェイスブックに日々の雑感を記している。この一点をもつてしても、現代における情報化の進行は人類の文化そのものを大きく変化させようとしているはずで、僕たちは「言葉」というもののかかわり方自体を否定なく問い直す時代に生きていて、その大きな変化のあくまで一部分として本や雑誌の問題がある、と考えたほうがいい。

その意味では、これまでの本は「本という形式が得意とする領域」以上の役割を負わされていたと思います。たとえば知識や技術の伝達、政治的主張、宗教の布教活動、共同体の神話や物語の保存など、これまでの本は多くの役割を担ってきました。そうした目的で、人間が他者のまとまった考えに文字情報で接することを求めた場合、長いあいだ本を読むということ以外に手段がなかった。しかし現在は本を読むこと以外に、情報に触れるための回路がたく

さん登場していて、必然的に本それ自体が機能面を含めた更新を迫られている。するとこれまでの形式の本というのは、本という形式を愛する趣味人のための骨董品のようなものになっていく可能性が高い。しかし、かつて本が担っていた快楽や人に与える知的興奮、社会的な効果などは必要とされることに変わりはない。人間と情報の関係が大きく書き換えられてしまった今、どのようなものに乗せて人に届けられるべきかということを考える必要があるでしょう。

(宇野常寛『日本文化の論点』による)

(注) 新美南吉 1913-1943年。児童文学作家。

問1 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号〕

1

5

a フキユウ

1

- ① 被災者をキユウジヨする。
- ② 会議がフンキユウする。
- ③ 責任問題にゲンキユウする。
- ④ キユウチを脱する。
- ⑤ ロウキユウ化した建物。

b ソムける

2

- ① シユクハイをあげる。
- ② 友人のハイシン行為に慣る。
- ③ 神社にサンパイする。
- ④ センパイの忠告に従う。
- ⑤ 先入観をハイジヨする。

c ケイゾク

3

- ① コウケイ者を育成する。
- ② ケイカンを保全する。
- ③ ケイヤクを結ぶ。
- ④ ケイリヤクに引っかかる。
- ⑤ 最短のケイロで行く。

d チンレツ

4

- ① ウンチンを値上げする。
- ② チンセイ剤を打つ。
- ③ 記者会見でチンシャする。
- ④ 山海のチンミが並ぶ。
- ⑤ チンツウな表情を浮かべる。

e ユらいでいる

5

- ① 彼はボンヨウな人間だ。
- ② 彼女はいつもヨウキだ。
- ③ ヨウツウのため通院する。
- ④ 休みをとってセイヨウする。
- ⑤ 心が激しくドウヨウする。

問2

空欄 A

～ E

を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じものを二度以上選んではいけません。)

〔解答番号 A Ⅱ

6

、 B Ⅱ

7

、 C Ⅱ

8

、 D Ⅱ

9

、 E Ⅱ

10

〕

① 本質

② 日常

③ 論理

④ 技術

⑤ 生理

⑥ 表面

問3

傍線部1「何かもつと本質的なこと」とは何ですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号

11

〕

① 情報化、デジタル化が急激に進行したために、紙の本やマスメディアの社会的地位が低下して、存亡の危機に立たされていること

② これまで本が、知識や技術の伝達、政治的主張、宗教の布教活動、共同体の神話や物語の保存など、多くの役割を担ってきたこと

③ 今流通している日本語の本の形式や規模を定めているのは、出版社の制作コストや書店のチンレッツの慣習であって、合理性がないこと

④ 活字離れなんてまったくの嘘であって、多くの日本人はソーシャルメディアを通じて三日か四日で一冊分くらいの活字を読んでいること

⑤ 日常のコミュニケーションにおいて書き言葉の比重が大きくなったために、言葉とのかかわり方自体を問い直さなければならないこと

問4

傍線部2「存亡」と熟語の構成が同じものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

12

〕

① 冷淡

② 雑誌

③ 廃業

④ 否応

⑤ 必然

問5 傍線部ア「逆恨み」、イ「白眉」の本文中での意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 アⅡ

13

、イⅡ

14

〕

ア「逆恨み」

① 不可解な恨み

② 違法な恨み

③ 筋違いの恨み

④ 予想外の恨み

⑤ 執念深い恨み

イ「白眉」

① 中心となるところ

② 特に優れたところ

③ 問題となるところ

④ 注目すべきところ

⑤ 人気のあるところ

問6

傍線部3「火打ち石のような」の「ような」と意味・用法が同じものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

15

〕

① だれかに見られているような気がしてならない。

② うちの祖母のような働き者もめったにいない。

③ 開始時間に遅れるようなら連絡してください。

④ バケツの水を引っくり返したような大雨が降った。

⑤ 電車が止まっているようなので今日は欠勤します。

問7 傍線部4「こうした知性」とはどのような知性ですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号

16

〕

- ① 時代の先を読んで新しいものをどんどん吸収しようとするような知性
- ② どんなに時代が変化しても「知」への信頼を決して失わないような知性
- ③ 社会の変革を直視して自分自身をも変えていこうとするような知性
- ④ 新しい技術によって淘汰されてゆくものを大切にしようとするような知性
- ⑤ たとえ時代が変わっても普遍的な価値のあるものを大切にしようとするような知性

問8 傍線部5「本という形式を愛する趣味人のための骨董品のようなものになっていく可能性が高い」とありますが、その理由として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

17

〕

- ① 今の日本では活字離れが進んでいる上に、多くの人がメールやライン、ブログやツイッターやフェイスブックなどを利用しているから。
- ② 今流通している日本語の本は最適化されたものではないにもかかわらず、知識や技術の伝達、政治的主張などの役割を担ってきたから。
- ③ 情報化の進行によって情報を得る手段が多様になっている上に、本という形式はそのための手段として優れたものとは言えないから。
- ④ 「電子書籍の波がやってきた後も残るであろう紙の本のよさ」といった話がささやかれているにもかかわらず、活字離れが進んでいるから。
- ⑤ 今や人間と情報の関係が大きく書き換えられてしまったにもかかわらず、紙の本に対する需要はデジタル化以前と少しも変わらないから。

問9 次は本文を読んだA～Eの5人の生徒が話し合ったものです。筆者の考えと合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号〕

18

① A 筆者はインターネットの時代になって紙の本はどんどん淘汰されて、やがては趣味人のための骨董品のようになっていくと考えているね。
② B 僕も紙の本はほとんど読まないなあ。電子書籍の方が手軽だし、それに読みたければすぐに購入して読める。紙の本は重いし、小さい字は疲れるよ。

③ C デジタル化で紙の本の価値が下がるのは、『おちいさんのランプ』のランプと同じで、淘汰されていくのを愛惜していても仕方がないよなあ。
④ D でも紙の本には紙の本なりのよさもあるわけで、ソーシャルメディアの言葉と比べたら、やっぱり本の言葉の方が大きな役割を担っていると思うけど。

⑤ E 確かにデジタル化する前までは文字情報は紙の本から得るしかなかったわけだけど、これからは最適なメディアを選べる時代になるんだと思うよ。

第2問 次のA・Bはいずれも美尚中の文章です。これらを読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

A やれやれ、長生きするといろいろな経験をするようになるようだ。いいことだけではなく、嫌なこと、大変なことも経験せざるを得ない。しかも、それが想定外の想像を絶するものであれば、「どうにもならない」と観念せざるを得ない。巨大地震に津波、原発事故、鉄砲雨のような集中豪雨に河川の氾濫^a、さらに世界的な金融危機や気候変動と、この10年を振り返ると、そうした想定外の事象や出来事のオンパレードである。何とまあ、これでもかこれでもかと、「どうにもならない」ことが続くことか。

そして、2020年に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大で、世界中がA、みんな身構えて縮こまってしまったようだ。2月末には日本への渡航自粛を呼びかける国も増えはじめ、インバウンドも大打撃を被ることになった。（イ）、欧米のあちこちで、アジア系や「黄色人種」とみなされている人々への嫌がらせや差別が頻発^c。19世紀後半、黄色人種が世界に禍^{わざわい}をもたらすという人種差別的な誤った考え「黄禍論^{おうちろん}」がドイツ帝国を中心に広がったことがある。新型コロナウイルスの感染拡大によって、その亡霊¹が蘇りつつあるような様相を呈していた。

2 どうしてこうも「どうにもならない」ことが立て続けに起こるのか。よくよく考えてみると、「どうにもならない」という思いが強いのは、逆に言うところ「どうにでもなる」という考えに慣²らされていたことの反動ではないのか。「どうにでもなる」という横柄^xな考えが強ければ強いほど、またそうした思考に慣²らされていけばいほど、それが通用しない想定外の出来事に出くわすと、「どうにもならない」という思いも強くなるのかもしれない。考えてみれば、そもそもこの世界の出来事や人間のやることは、「どうにもならない」ものであるというのが、世の常だったのではないのか。第一、自分の身体ですら、「どうにもならない」のが人間の性^{さが}である。それはたぶんヒューマン・ネイチャー（人間の自然）に根ざしている。

それでも、私たちの中に「どうにでもなる」という意識が強くなってきたのは、どうしてだろうか。その有力な要因として挙げられるのが、科学の発達であり、また技術の進化ではないだろうか。

科学の発達や技術の進化は、人間も含めて世界を「どうにでも」操作できる能力がより高まっていくことを意味している。最近はやりの「AI（人工知能）万能論」も、「どうにでもなる」という考えの集大成と言えるかもしれない。極論すれば、AIによって将来、自然現象や社会的な出来事に伴う不確定性は極限まで縮減され、想定外なことなどほとんどあり得なくなり、大抵のことが「どうにでもなる」とみなされるかもしれないのだ。

3 （ロ）、人間は不可避免的に「身体」的な存在である。

「身体」的な存在とは、感覚や感情、観念やイメージ、夢や理想も含めて、ありとあらゆる人間的な表象がすべて「身体」との総合的な関わり合いの中で生まれたり消えたり、また変化したりするのである。

人間の心もまた、「身体」的な存在に宿る精神作用と言える。私たちを制約すると同時に私たちに可能性を与えてくれる「身体」性を抜きにして知能や

観念を考えることが、いかに抽象的で一面的であるかは、今回の新型コロナウイルスの感染を見れば明らかである。ウイルスは機械をその「宿主^{しやくしゅ}」とすることはできない。生きている、有機体としての人間の「身体」だからこそ、ウイルスはそれを「宿主^{III}」に選んだのである。ウイルスから完全に自由であるために、人間は自分の身体を抹消^dして、ただ知能の塊^eとしての「脳」だけに縮約できるだろうか。そんなことは **B** なSFの世界である。

今回の「ウイルス騒ぎ」は、改めて人間は「どうにもならない」身体を授かった生き物であることを私たちに教えてくれた。しかも、私たちがやれることは、実に原始的で簡単なことだ。マスクをし、よく手を洗う、これに尽きる。(ハ)、感染するとしたら、「どうにもならない」。

(姜尚中「無心になること」による)

B 新型コロナウイルスの世界的流行は、想像以上の規模とスピードで世界中に禍を広げていった。連日、この話題がメディアで取り上げられ、胸が締め付けられるような息苦しさを感じた人も多かったのではないだろうか。

イタリアやスペインでは感染者の数も、死亡者の数も増え続け、ドイツやフランス、イギリスに始まり、アメリカも「ウイルス騒ぎ」で、世界有数の都市、観光地、繁華街がまるでゴーストタウンにでもなったかのように静まり返ってしまった。

日本でも、首都圏を中心に感染が拡大。外出自粛要請に続き、4月7日には、東京をはじめとした7都府県に「緊急事態宣言」が発令された。欧米のようなロックダウン(都市封鎖)には至らないものの、市民生活は大きく制限され、重大局面を迎えていることを痛感させられた。

(ニ)、ウイルスも怖い、もつと怖いのは、それによってもたらされる経済的な混乱と破綻^fだろう。それは、失業や倒産、生活破綻などを伴う深刻な禍をもたらした。それこそ、平凡ではあれ、それなりに幸せな暮らしが一夜にして破綻の淵に追い込まれてしまうのである。それは不条理^Vとしか言いようがない。

おそらく、このような不条理をアルベール・カミュと並んで文学のテーマにしたのは、フランツ・カフカではないだろうか。プラハのユダヤ人家庭に生まれながら、ドイツ語で孤独と夢、ユーモアと残酷さが渾然^{こんぜん}一体となった小説を残したカフカ。中でも彼の代表作でもある『変身』(1915年)は、まるで未知のウイルスの蔓延^{まんえん}に翻弄^gされる、現在の人間の姿を予見しているかのようで考えさせられる。

ある朝気がついたら醜悪^hな虫に変身していた善良な主人公の青年、グレゴール・ザムザ。彼は家族からも忌み嫌われ、失意のうちに命を落とすことになるのだが、ザムザを、ウイルス感染の果てに重症化し、死を余儀なくされる患者に置き換えることは、あながち強引なこじつけとは言えないはずだ。実際、欧米では、感染しているのかさえわからないのに、偶^{たま}さかマスクをしたアジア系の人間というだけで、忌み嫌われ、石もて打たれるような差別や迫害が起きているのであるから、ザムザと似た境遇を強いられている人々がいても不思議ではない。

カフカの不思議な小説は、私たちが当たり前だと思っている日常の世界が、突然、パカッと口を開け、人を奈落の底へと引きずり込んでしまうようなミ

ステリアスな恐怖に満ちていることを示唆^jしている。

グローバルな世界——人やモノや情報が飛び交い、サプライチェーン（供給連鎖）が縦横に延び、誰もが相互に依存しながら、「地球村」に生きているという感覚が広がる世界。このように寿^{ことほ}がれてきた世界が、ウィルスという細胞すらない原始生命に近い存在によって、その奈落の底を垣間見せることになったのである。グローバルな世界は、実はとてつもない禍、今日的に言えばリスクと隣り合わせの世界だったのである。

（姜尚中「新しい『中世スタイル』を楽しむ」による）

（注1） インバウンド＝外国人観光客による旅行。

（注2） アルベール・カミュ＝一九一三～一九六〇年。フランスの小説家、劇作家。

（注3） フランツ・カフカ＝一八八三～一九二四年。チェコ出身のドイツ語作家。

問1 傍線部a～jの漢字の読みが間違っているものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号

i＝

19

、ii＝

20

〕

i

① a「氾濫」＝はらん

② b「被」＝こうむ

③ c「頻発」＝ひんぱつ

④ d「抹消」＝まつしょう

⑤ e「塊」＝たましい

ii

① f「破綻」＝はてい

② g「翻弄」＝ほんろう

③ h「醜悪」＝しゅうあく

④ i「忌」＝い

⑤ j「示唆」＝しさ

問2 空欄（イ）（二）を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。（同じものを二度以上選んではい

けません。）〔解答番号

イ＝

21

、ロ＝

22

、ハ＝

23

、ニ＝

24

〕

① また

② もつとも

③ それでも

④ しかし

⑤ たとえば

問3 傍線部Ⅰ～Ⅴの「それ」が指示する内容として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

25

〕

- ① ⅠⅡ嫌なことや大変なこと
- ② ⅡⅢ「どうにでもなる」という思考
- ③ ⅢⅣ人間の「身体」
- ④ ⅣⅤ経済的な混乱と破綻
- ⑤ ⅤⅥ幸せな暮らしが一夜にして破綻すること

問4

空欄

A

B

に入る四字熟語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号

AⅡ

26

、BⅡ

27

〕

- ① 荒唐無稽
- ② 虎視眈々
- ③ 支離滅裂
- ④ 戦々恐々
- ⑤ 付和雷同
- ⑥ 言語道断

問5

傍線部1「その亡霊」が指しているものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

28

〕

- ① 新型コロナウイルス
- ② 黄色人種
- ③ 19世紀後半
- ④ 「黄禍論」
- ⑤ ドイツ帝国

問 6 傍線部 2 「『どうにでもなる』という考えに慣らされていた」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 29〕

- ① 科学が発達し技術が進化したことで、想定外なことを想定内と思ってしまったから。
- ② しばらく前までは、想定外の出来事はそうたびたび起こるものではなかったから。
- ③ 感覚や感情など、あらゆる人間的な表象は身体との関わり合いの中で生じるから。
- ④ 科学技術の進歩によって、人間がある程度自然や社会を操作できるようになったから。
- ⑤ 原発事故や金融危機、新型コロナウイルスの感染拡大などは過去になかったから。

問 7 傍線部 X 「横柄な」、Y 「不条理」の意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 X 30、Y 31〕

X 「横柄な」
① 驕り高ぶった

② 間違った

③ よこしまな

④ 開き直った

⑤ いい加減な

Y 「不条理」
① 状況が苛酷であること

② いまだかつてないこと

③ 程度が尋常でないこと

④ 忍耐の限度を超えること

⑤ 筋道が通らないこと

問 8 傍線部 3 「人間は不可避免的に『身体』的な存在である」とはどういう意味ですか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 32〕

- ① 人間は科学技術によって自然を支配できたとしても、自分の身体だけは「どうにもならない」という意味
- ② 人間の感覚や感情はもちろん、いかなる思考や観念も身体という内なる自然に根ざしているという意味
- ③ 人間の身体は新型ウイルス感染を見ても明らかのように、「どうにもならない」脆弱ぜいじやくなものであるという意味
- ④ 人間の感覚も感情も思考もすべて、その時その時の身体の状態に影響されるものであるという意味
- ⑤ 人間の身体は「どうにもならない」ゆえに、想定外の事象や出来事にふり回されてしまうという意味

問 9 傍線部 4 「実際」は下のどの語句に直接かかりますか。最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 33〕

- ① 感染している
- ② 忌み嫌われ
- ③ 起きている
- ④ 強いられている
- ⑤ 不思議ではない

問 10 カフカにいち早く注目し、その翻訳も行った日本の小説家に中島敦がいます。中島敦の作品を、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 34〕

- ① 草枕
- ② 金閣寺
- ③ 山椒魚
- ④ 暗夜行路
- ⑤ 山月記

問11

A・B二つの文章を比較したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

35

〕

① AもBも新型コロナウイルスの感染拡大をテーマとしている点では同じであるが、Aが「どうにもならない」と悲観するだけであるのに対して、Bは「どうにもならない」ことの原因を不条理に見出している。

② AもBも新型コロナウイルスの感染拡大をテーマとしている点では同じであるが、Aが科学技術の発達に感染拡大の原因を求めているのに対して、Bは不条理という人間の根本的な宿命にそれを見出している。

③ AもBも新型コロナウイルスの感染拡大をテーマとしている点では同じであるが、Aが人間の身体の「どうにもならない」性質に焦点を当てているのに対して、Bは日常世界に潜む不条理に焦点を当てている。

④ AもBも新型コロナウイルスの感染拡大をテーマとしている点では同じであるが、Aが自然科学的な視点からその現象を客観的に分析しているのに対して、Bは文学的な視点からそれを想像力豊かに描いている。

⑤ AもBも新型コロナウイルスの感染拡大をテーマとしている点では同じであるが、Aがウイルスの身体への影響に力点を置いているのに対して、Bはウイルスが引き起こす社会的混乱や破綻に力点を置いている。